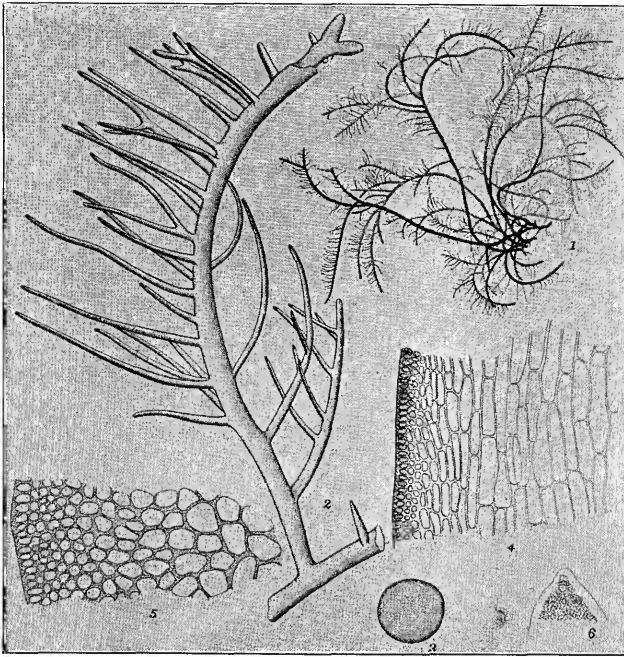


しまてんぐさ屬トてんぐさ屬トニ就テ述ベル

○しまてんぐさ屬トてんぐさ屬トニ就テ述ベル

理學博士 岡村金太郎



しまてんぐさ (*Echinocaulon rigidum* Kütz.)

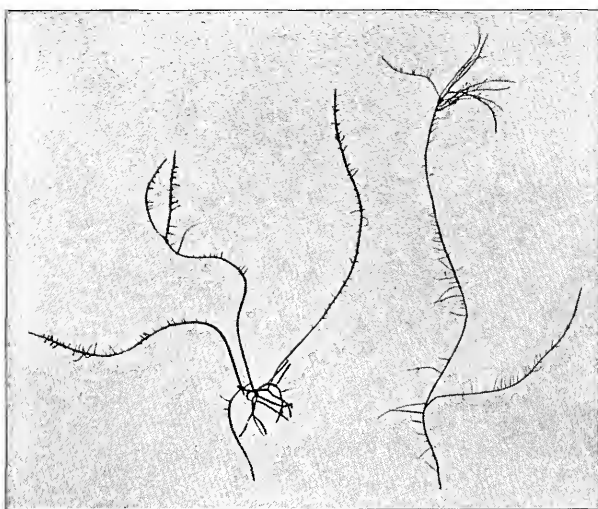
(岡村著日本藻類圖譜第二卷第二號第五十九圖版 1909.)

分類ノ學問ト云ヘバドノ部ニ屬スルモノデモ孰レ同ジ様ナコトデアラウト思フガ海藻ニハ殊ニ一ノ屬ノ中ニイロ／＼ト異ナツタ性質ノアルモノガアツテ夫ガ明ニ區別セラレナイ間ハ何トカ理屈ヲツケテ間ニ合ハシテ居ルガ儲テ誰カバ一人其區別ヲ見付ケ出シテ其性質ニ依テ彼是ヲ區別シテ見ルト誠ニ立派ナ根據ニ依テ分類ガ判然トスルト云フ様ナ實例ガ少ナクナイ、玆ニ説キ出ス一節モ亦其一例デ「看客深ク其心シテ讀ミネカシ」ト馬琴口調デ書ク程ノモノデモナイガ「先ヅ一通リキ、ネカシ」

本邦ノ南部小笠原島、琉球カラ鹿兒島縣下アタリニアルしまてんぐさ (岡村、日本藻類圖譜、二卷二集五十九圖版ノ一一六圖) ハ從來學名ヲ *Gelidium rigidum* (Vahl) Gréy. ト呼バレテ居タガ夫ヲ和蘭ノ *Weber van Bosse* 女史ガ一

九〇四年ニ *Gelidiopsis rigida* (Vahl) Weber v. Bos. ト訂正シタ故私モ同圖譜一八八頁ニソノ通りニ訂正シタ、
處ガ夫ガ更ニ昨年ニ至テ佛蘭西ノ J. Feldmann ニ依テ *Echinocaulon rigidum* (Vahl) Kütz. トスベキダト云フ事

ニナッタ其顛末ハ仲々並大抵ノ事デハナイ



しまてんぐさ (*Echinocaulon rigidum* Kütz.)

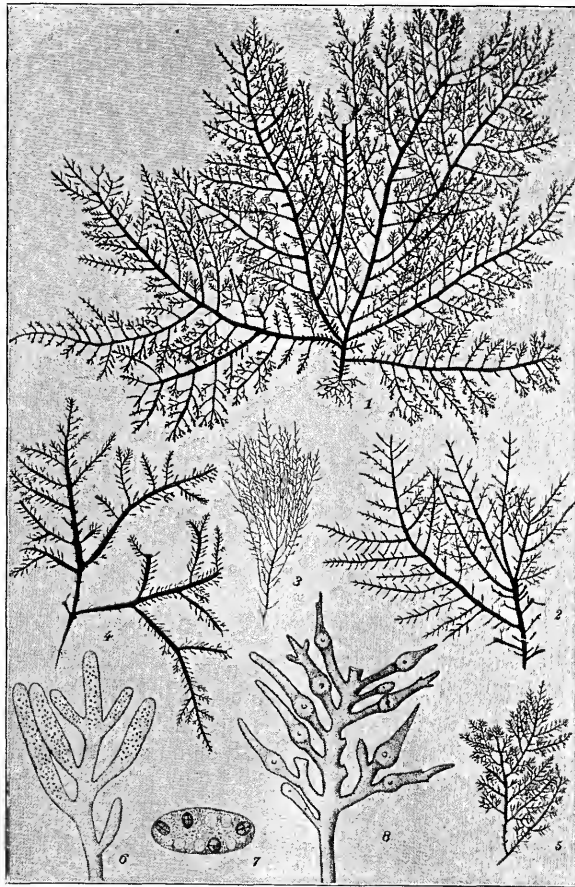
(標本寫眞)

(*Gelidium*) ニ見ル如ク細胞ト細胞トノ間ニアル細イ根様細胞ノナイ事ト成長點細胞ガ明デナイト云フ事トニ依

しまてんぐさ屬トてんぐさ屬トニ就テ述ベル

元來此植物ハ千八百〇二年ニ Vahl ガ初メテ *Fucus rigidus*
Vahl ト命名シタモノデ夫ヲ Lamouroux ガ千八百五年ニ *F.*
spinaeformis ト改メ Turner ハ千八百十九年ニ *F. cornus*
var. spinaeformis ト訂正シ C. Agardh ハ千八百二十四年ニ
Sphaerococcus rigidus ト變ヘ千八百三十年ニ Greville ハ
Gelidium rigidum トシタ、此學名ハ Kütz. 及 J. Agardh モ
千八百四十九年カラ千八百七十六年ニ互ル間襲用シテ居ッ
タ、處ガ Kütz. ハ千八百四十二年ニ *Echinocaulon* ト云フ
屬ヲ設ケテ *E. spinellum* ヲ千八百四十二年ニ發表シ更ニ千
八百六十八年ニ *E. ramelliferum* Kg. 及 *E. rigidum* Kg. ト
ヲ發表シタ、然シ此等ノ *Echinocaulon* ハ皆同一種デアルト
後ノ學者ガ査定シタ、夫デ暫クノ間ハ *Echinocaulon* ト云フ
屬ハ學者間ニ認メラズ異名トシテ其マ、ニ葬ラレテ居ッ
タ、千九百五年ニ至リ Weber v. Bosse ハ其當時 *Gelidium*
トセラレテ居ッタ此植物ヲ研究シ其體ノ構造ガてんぐさ屬

しまてんぐさ屬トてんぐさ屬トニ就テ述ベル

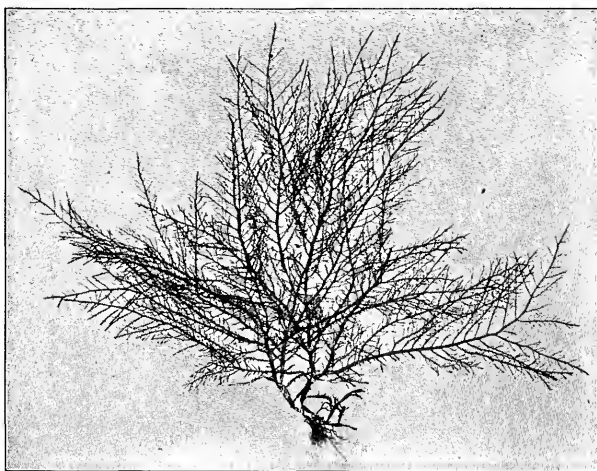


てんぐさ (*Gelidium Amansii* LAMOUR.)

(岡村著日本藻類圖譜第三卷第二號第百六圖版 1913.)

根據ハ立派ニ成長點ノアルコトハ此植物ヲ *Gelidiopsis* ニ配置スルコトヲ許サズ種々ノ點ニ於イテ *Gelidium cartilagineum* ニ似タルヲ以テ根様細胞ハナイケレドモ *Gelidium* ニ置クガ正シイト論ジ、米國ノ *SCOTCHELL* モ *TAYLOR* モ之ニ賛成シテ居タ、私ハ今 *HOWE* ノ此事ヲ發表シタ *Flora of Bermuda* (1918) ヲ持タヌカラ此植物

テ之ヲ *Gelidiopsis* ニ移シ *Gelidiopsis rigida* (VAHL) *WEBB* V. B. トシタ、其後私ハ之ヲ前記圖譜ニ圖說シテ立派ニ成長點ノアルコトヲ明ニシテ置イタガ(千九百九年)私モ成長點ノ事ニハ氣ガ付カズ唯根様細胞ノナイ事ダケハ *Gelidium* ト異ナルノデ *WEBB* ノ說ニ隨テ之ヲ *Gelidiopsis rigida* ト訂正シタコトハ前ニ言ツタ通りデアル、千九百十八年ニ米國ノ *HOWE* ハ之ヲ *Gelidium* ニ移シタ、其

てんぐさ (*Gelidium Amansii* Lamour.)

(標本寫眞)

ニ立派ナ成長點ノアルコトヲ Howe 自身が見タカ或ハ私ガ圖說シタノニ依ッタカハ斷定シ難イガ Børgesen ノ千九百二十年ニ出シタ Mar. alg. Danish West Indies 三七一頁ニハ此ノ成長點ヲ初メテ發見シタノハ岡村ダト私ノ圖譜ヲ引用シテ別ニ Howe ノ事ヲ言ツテ居ナイカラ多分私ノ研究ニ依ッタモノデアラフ、而シテ Børgesen ハ根様細胞ガナイカラ Howe ノ言フ様ニ *Gelidium* ニハ入レラレナクテ矢張り *Gelidiopsis* ニ入レルガ正シイト論ジテ居ル、然モ同氏ハ立派ニ成長點ヲ圖シテ居ル

私モ此植物ヲ *Gelidium* ニ入レルトスルト根様細胞ノナイ事ガドウモ腑ニ落チズ Howe ヤ Setchell ハドウシテ之ヲ *Gelidium* ニ入レルト言ツテ涼シイ顔ヲシテ居ルノカト疑ツテ居

タ
處ガ此二月十四日佛蘭西ノ J. Feldmann ト云フ從來文書ノ交換ヲシテ居ラナイ學者カラ一論文ヲ送ツテ來タノデ一覽スルト中ニ岡村ト書イテアルノデ不得手ナ佛語ヲ字引ト頼ッ引キデ讀ンデ見タラ此問題デアツテ結局此植物ハ千八百六十八年ニ Kützting ガ *Echinocaulon rigidum* (Vahl) Kützting ト命名シタ學名ニ復歸スルコトニナツテマヅ梟ガツイタ譯デアルガ、然シ此植物ノ四分胞子ハ近ク明ニナツタケレドモ精子器モ囊果モマダ見付カラナイカラ夫ガ有ルカ無イカモ定メナクテハマダ充分ト云フ所マデ到

癩病ノ特效藥デアル大風子

ツタトハ言ヘス、夫デ *Echinocaulon* ト *Gelidium* ト *Gelidiopsis* トノ區別ヲ分リ易イヨウニ檢索表ニシテ示スト

一、成長點ノ明カナルモノ

a 根様細胞ヲ有スルモノ……………*Gelidium*

b 根様細胞ヲ有セザルモノ……………*Echinocaulon*

二、成長點ナクシテ噴水式構造ヲ有スルモノ……………*Gelidiopsis*

トナル譯デアル

抑モ千八百二年ニ發表サレターノ海藻ガ千九百三十一年ニ至ッテ漸ク正確ナ根據ノ下ニ其屬スベキ位置ニ置カレタ譯デアル、一ツノモノデモ百二十九年カ、テ居ルコトヲ考ヘルト學問ト云フモノハ難有イモノデ時間ヲ超越シ努力ヲ惜マズ精進スル所ニ其尊トサガ視ハレル、分類ハ學問デナイト云フ人モアラウガ夫ハ其人ノ見ニ任カス、要ハ唯事實ヲ深ク知ル事ガ大切デアルノデ是ハ即チ「學術ヲ恐懼セヨ」ト多クノ識者ノ言フ所デアル、言ヲ換ヘレバ學問ハ正確ヲ期セヨト云フニ同ジデアル、分類學ノ樂シミモ亦其中ニ在ルノデ實ニ此樂シミハ知ル人ゾ知ルトコソ言フベケレ

○癩病ノ特效藥デアル大風子

藥學博士 刈 米 達 夫

大風ハ漢方ニ謂フ風疾ノ一デ今ノ癩病デアル、本草綱目大風子ノ釋名ニ「能ク大風疾ヲ治ス故ニ名ク」トアリ、佛典ニヨレバ既ニ千餘年前カラ印度デ癩病ノ治療ニ用ヒテ居ル、而テ現在ニ於テモ唯一無二ノ癩病藥デアル、タダ昔ハ大風子又ハ其油ヲ内服シ或ハ患部ニ塗布シタモノデアルガ今ハ專ラ大風子油ヲ皮下注射スルダケノ違ヒデアル